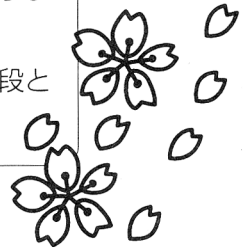


※4 段物とは？

箏曲の一種で、いくつかの段をもつ曲です。この場合の段は、平安時代から江戸時代にかけての古典文学の物語形式作品（「枕草子」や「源氏物語」など）における段と同じで、区切り（一節）を意味します。有名な箏曲の段物作品に八橋検校作曲の『六段の調』があります。

段物は本来独奏曲ですが、同一曲の異なる段と合奏したり、他の段物作品の中のある段と合奏したりすることがあります。また、本手と替手による合奏作品もあります。

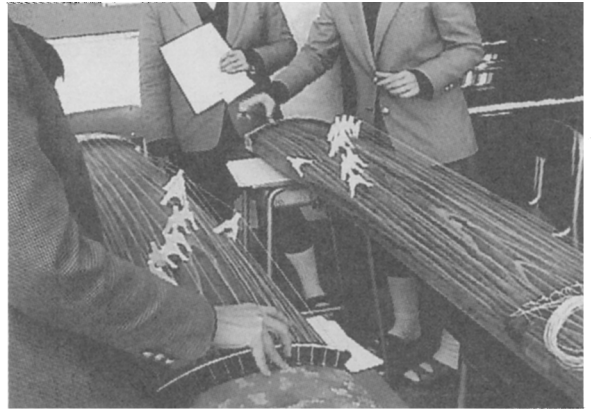


① 創作の手順について

1グループは5～6名で構成します。この1グループで1段を担当します。1面につき2～3名に分かれて、2面の箏は向かい合う形で置きます。

ア 本手（旋律）と替手（伴奏）のパート分担

まず、本手と替手の2つのパートに分かれます。曲の途中でパートを交替するものとし、その箇所について相談させます。



イ 替手担当部分の創作

創作するリズムや音は本手の奏法譜（算用数字による横譜を使う。P. 33の『かごめかごめ』の楽譜参照）にメモしていきます。教師は、創作のための参考として箏曲や伝統音楽によく見られるリズムの「型」を紹介します。生徒は、「型」そのものを借用したり、それを展開させた型を考えながら創作をすすめます。

☆ 代表的なリズムの「型」と展開の例

